２０１７年（平成２９年）１０月１７日　火曜日

デーリー東北　１４面　掲載

私の天鐘 入賞作品紹介

「私の天鐘」入賞作品決定

デーリー東北新聞社が募集していた第3回「コラムに挑戦『私の天鐘』」の入賞作品が決まった。今回は初めて、小・中学生の部で最優秀賞が2編選出されるなど、読み応えのある、内容の充実した作品が目立った。各部門の入賞者と、それぞれの最優秀賞に輝いた作品全文を紹介する。

応募総数は計67点。昨年の84点を13点上回った。内訳は、一般の部（大学生を含む）が39点、高校生の部が8点、小・中学生の部が50点だった。

八戸学院大短期大学部学長補佐・ライフデザイン学科長の茂木典子氏と、本紙「天鐘」担当者3人の計4人で、10月初旬、テーマや論旨、表現方法などについて審査、入賞作品を決定した。

「私の天鐘」は、読者の方々に、日々の暮らしの中で感じている思いや希望、地域への提言などを、本紙の1面コラム「天鐘」と同じ形、字数で自由につづってもらうもの。

表彰式は21日午前10時半から、本社6階メディアホールで行う。

応募作品を選考した審査会＝2日、デーリー東北新聞社

まずは書いてみよう

寄せられた一人一人の「私の天鐘」を読ませてもらいながら、「コラムって楽しいなあ」と、改めて気付かされた。順位を付けるのが申し訳ないくらいに、応募作品は一編一編がそれぞれに輝いていた。審査を終えた、偽らざる実感である。

3回目となった今年は、環境保護など硬派な社会問題を扱った作品に加え、日々の暮らしのあれこれや家族との絆、自分の住む街の未来など、バラエティーに富んだテーマが集まった。Jアラートといった、つい最近の事象を取り上げた作品もあって、時代感覚の敏感さに驚かされた。

特に小・中学生の部の応募作品が、昨年に比べ28点から50点へと増えたのは、心強い限りだった。レベルも高く、最終的に最優秀賞2編を選ぶ結果になった。

中でも、唯一の小学生の作品は、難しい言葉や言い回しは全く使われていない。それでも、よく「コラムって何ですか」と、聞かれることがある。辞書で引くと、短い評論などとあるが、個人的には、人とつながるコミュニケーションの手段の一つだと考えている。だから、多くの読者にこれからも「私の天鐘」に挑戦してみてほしい。

だが言うはやすしで、自分の考えや思いを言葉にし、正しく相手に伝える作業は、実はとても難しい。天鐘なら563字しかないから、なおさらである。

まずは「何を伝えたいか」をじっくり考えるところからだろう。伝えるべき内容が決まったら、まずどんどん書いてみる。平易な言葉で、読者に「金のこと」として響くように配慮する。単なる押し付けではなく、反省や迷いがあればそのまま語っていて、読者が共感できる作品になっていたと思う。

秀賞のテーマは、日々の家事に対する、前向きでほほ笑ましい反省だった。高校生の部では、若者ならではの正義感に駆られて取った行動についての、整理し切れないもやもやした思い。どちらも自分の考えに加え、反省や迷いを自らの言葉で素直に綴っていて、読者が共感できる作品になっていたと思う。

（論説委員長　吉田昇）

総評

入賞者一覧（敬称略）

● 一般の部

【最優秀賞】
「家事再考」
階上町　教員　佐々木宏恵(52)

【優秀賞】
「八戸市新美術館に期待する」
八戸市　自営業　蟹沢　健(65)
「ビブリオバトル」
八戸学院大短期大学部1年
下川原梨音(19)＝十和田市

【佳作】
「市民が輝けるまち」
八戸市　会社員　田村　巧(47)
「マスキングテープ」
八戸学院大短期大学部1年
石橋　美空(19)＝八戸市

● 高校生の部

【最優秀賞】
「正しい選択」
八戸工大二3年　熊野葉瑠菜(18)＝おいらせ町

【優秀賞】
「失敗の宝庫」
八戸工大二3年　佐藤　綾子(17)＝八戸市

【佳作】
「海洋酸性化から海を守ろう」
八戸工大二3年　吉田　龍平(18)＝八戸市

● 小・中学生の部

【最優秀賞】
「ことば」
八戸市立白山台中2年　田村　水脈(14)
「お母さんの友達」
八戸市立西白山台小5年　小山内　睦(10)

【優秀賞】
「目まぐるしく変化する『あたり前』」
八戸市立白山台中3年　木村　由衣(15)
「三社大祭のこれから」
八戸市立東中3年　山野内彩香(15)

【佳作】
「ボランティアから考える社会福祉」
八戸市立第一中2年　梅内智穂子(14)
「反抗期と母」
八戸市立白銀南中2年　佐藤　那奈(14)

最優秀賞

一般の部　佐々木宏恵さん（階上）

高校生の部　熊野葉瑠菜さん（八戸工大二）

小・中学生の部　田村水脈さん（八戸・白山台中）、小山内睦さん（八戸・西白山台小）

デーリー東北新聞社提供